

心豊かな「食」実現

創業75年。本県の食を支える総合食品流通のリーディングカンパニー株山形丸魚。「心豊かな食の実現を通じて、当社にかかわるすべての人たちの幸福を追求し、社会へ貢献するということにつきる」。新年にあたって抱負を語る矢野秀弥代表取締役（県水産物卸売協会会長）に同社の歩みと、公設市場の目指すべき姿について聞いた。

―矢野家は小橋町（現・錦町）で、江戸時代から代々魚問屋矢野屋を営み、「いさばもの（海産物）」を商っていました。当時の内陸への流通路は。

矢野社長 明治時代の中頃までは酒田港から最上川を遡って羽前長崎（現・中山町長崎）に到着。曳船人足が須川の土手から船町まで船を曳き、陸揚げされた海産物は寒河江道を通って、城下北の商人町小橋町、肴町に運ばれました。昆布、塩タラ、塩マス、身欠きニシン、するめ、干し数の子といった物です。明治38年に奥羽本

線東京―青森間が全線開通し福島、宮城、岩手の各沿岸の漁港から樽詰めされた魚が大量入荷。大正4年に山形で初めての魚市場が横町（現・本町）に開設され、市場の間屋から小売商が仕入れるようになります。

前身は戦前の「県海産物配給統制組合」

―株山形丸魚が設立したのは1953（昭和28）年です。その間の経緯をうかがいます。

矢野社長 太平洋戦争勃発直前の昭和16年9月、農林省令で山形県鮮魚介類配給統制規則が施行されます。魚介類の荷受・配給業務を県が指定する荷受組合のみに担当させるといふもので、長い伝統を誇った間屋は翌年12月に強制的に合され、祖父矢野善助（第14代山形商工会議所会頭）を組合長に、県内各地の大間屋31業者が「山形県海産物配給統制組合」を設立します。「山形丸魚創業の原型です」。

終戦直後、組合は解散し庄内の組合員は独立しましたが、内陸部では組合員が新たに強力な組織体「山形県海産物荷受販売組合」を設立しました。営業範囲は村山、最上、置賜全域で、県内水産物取扱高の70%を超える占有率を確立。水産五大会社をはじめ大手食品メーカー、全国千数百に上る荷主・生産者と取引し東北最大級の取扱高へと成長。事業の近代化を図るため株式会社化し株山形丸魚が誕生します。

―昨年11月、山形県卸売市場審議会は第10次卸売市場整備計画案を県に答申しました。矢野社長は県水産物卸売協会会長として、計画案策定に関わっています。現状と答申案についてうかがいます。

矢野社長 県内の卸売市場は水産物と青果物



（写真上）数万種類に及ぶ食品が次々と本社倉庫に運ばれる（写真下左）市場で開催されている「料理教室」（写真下右）人気の「市場まつり」。待ちかねた市民が場内へ

を扱う総合卸売市場と、青果物、水産物、花き単独の計31です。総合は当社が卸売業者として入場し、山形市を中心に寒河江、西村山、天童、東村山、北村山、最上、上山市をカバーしている山形市公設地方卸売市場（昭和50年、山形市が開設）のみです。

各市場とも取扱数量・金額は減少傾向にあります。理由は「需要と供給の変化」、「流通形態の変化」という2つの環境変化に起因します。前者は少子高齢化に伴う食料消費量の減少、核家族化の進行、女性の社会進出といった社会的要素で、後者は魚屋、八百屋などの小売店の減少、量販店・食品スーパー、コンビニエンスストアの増加、市場を経由せずに直接消費者の手に届くネット通販や、生産者の直接販売（産地直売）の急激な伸びによるものです。

生鮮食品の基幹インフラ「卸売市場」

―答申案では市場独自の経営戦略の確立を強調しています。秋田市では指定管理者制度を導入し株式会社公設卸売市場を運営しています。



（株）山形丸魚 総合食品流通業。創業昭和17年、会社設立同28年。資本金1億円。売上高246億円（平成28年3月）代表取締役社長矢野秀弥（写真）。本社・天童市、山形市公設地方卸売市場内に山形支社。米沢、長井、楯岡、新庄、酒田、鶴岡の各営業所、庄内事業所



矢野社長 指定管理者制度は市場の活性化に向けての有効な手段のひとつです。実現には山形市や関係業者の方々との連携を図り、パートナーシップを築きながら取り組まなければならぬでしょう。同時に消費者ニーズに的確に対応した商品開発、小売店への営業支援、山形の食文化や健康に関する情報発信も重要な経営戦略の一環です。卸売市場は生鮮食品等の円滑かつ安定した流通を確保する「基幹的インフラ」です。水産物を例にとりますと、全国の各漁港から2日間で調達できるネットワークは、他の国にはない日本独自の極めて優れたシステムです。東日本震災では、山形市場に集積された食品が被災地に届けられました。今後とも、生鮮食品の流通の中核として、生産者、実需者、消費者の期待に応えていかなければなりません。「その土地の市場に行けば、その土地の人々の暮らしが分かる」と言います。市場は古来より人々の集まる開放的な場でもあります。親しまれる場にしたいですね。市場に携わる者として、その責任を痛感しています。